

| | |
|--------------|---|
| 2. 事業の概要と成果 | |
| (1) 上位目標の達成度 | <p><u>上位目標</u>：</p> <p>本事業は、ゴクウェ・ノース地区のより多くの住民が安全な水及び衛生環境で生活できるようになることを目的とする。</p> <p><u>達成された事柄</u>：</p> <p>本事業は、2つの中学校にて貯水タンク計2基の設置、5つの小学校・中学校にてトイレ計10棟の建設、11の小学校・中学校にて手洗い場計85基の設置、コミュニティにて浅井戸計10基の設置／修繕をした。また、ミッドランド州ゴクウェ・ノース地区における水・衛生改善事業の第2期から引き継ぐ形で、参加型保健及び衛生に関する教育の既修者コースのヘルス・クラブの活動を継続した。これらの活動を通して、対象地域全体の水・衛生環境の改善に貢献することができた。</p> <p>また、本事業によって、裨益者らが自主的に水・衛生環境の改善に取り組むようになった。その一例として、支援した小学校・中学校の一つであるネバナ小学校では、School Development Committee (SDC: 学校開発委員会)が、独自に手洗い場を5基設置し、一度により多くの生徒が手洗いをできるようになった。SDCが手洗い場を設置するに至ったのは、本事業によってトイレの数が増加してそれに見合うだけの手洗い場が必要になったことと、またミッドランド州ゴクウェ・ノース地区における水・衛生環境の改善事業（第1期・第2期）による一連の水・衛生分野への支援に触発されたためであるとのことであった。本事業はインフラを整備しただけでなく、裨益者らの意識、行動変容をも促し、ゴクウェ・ノース地区の水・衛生環境の改善に寄与したといえる。</p> |
| (2) 事業内容 | <p>(ア) 安全な水へのアクセスの向上</p> <p>A. 学校における貯水タンク及び校舎の建設 2つの中学校（ガンガンガ中学校及びチオザ中学校）にて、貯水タンク（30,000L）をそれぞれ1基ずつ設置した。</p> <p>B. コミュニティにおける浅井戸の設置及び修繕 4つの区（8区、9区、33区及び34区）にて、浅井戸を計10基設置及び修繕した。なお、当初33区で5基を修繕し、34区で5基を新設する予定であったが、各区における浅井戸の設置／修繕数に関して同じゴクウェ・ノース地区で活動するUNICEFと調整した結果、各区での設置／修繕数を変更し、8区で3基を新設し、9区で1基を修繕し、33区で2基を修繕し、34区で4基を新設した。 （2015年8月27日付けで、変更報告書「ADRA ジンバブエ第08号」を提出した。）</p> <p>(イ) 衛生環境の改善</p> <p>A. 学校におけるトイレの建設 5つの小学校・中学校（ネバナ小学校、マブウェマテマ小学校、ニューマイン小学校、グラ小学校、チオザ中学校）にそれぞれトイレ2棟（男子用1棟、女子用1棟）を建設し、1棟あたり個室を5つ備え付けた。</p> |

| | |
|--------------------|--|
| | <p>また、5つの個室のうち1つは障がいをもった生徒にとっても使いやすいかたちに整備した。なお、当初ガンガンガ中学校にてトイレを2棟建設する予定だったが、同じゴクウェ・ノース地区で活動する UNICEF と調整した結果、マブウェマテマ小学校に2棟建設した。(2015年6月30日付けで、変更報告書「ADRA ジンバブエ第07号」を提出した。)</p> <p>B. 学校における手洗い場の設置 第2期で手洗い場の設置を行ない、第3期では当初計画していなかったが、11の小学校・中学校（グラ小学校、ニューマイン小学校、マブウェマテマ小学校、ザンダ小学校、ウンベ小学校、ブングワ小学校、マセモ小学校、チオザ小学校、ガンガンガ小学校、マセモ中学校、チオザ中学校）で手洗い場（Tippy-Tap）を計85基設置した。これは、第2期で手洗い場を設置した小学校・中学校及びその周辺の小学校・中学校（2010～2011年にかけて NGO 連携無償資金協力の助成を受けて、ADRA Japan が支援した小学校・中学校）にて、依然として手洗い環境への改善ニーズが高く、手洗い場の整備をより進める必要があると聞き取り調査とニーズ分析により判断したためである。 (2015年9月29日付けで、変更報告書「ADRA ジンバブエ第09号」を提出した。)</p> <p>C. 参加型保健及び衛生に関する教育の既修者コースの実施 ミッドランド州ゴクウェ・ノース地区における水・衛生環境の改善事業（第2期）で行なった「既修者コース」研修に参加したトレーナー（Trainer of Training）が、8つの小学校・中学校及び8区、9区、33区、34区のコミュニティにて、ヘルス・クラブの活動を継続し、2015年7月に活動を終えた。また、8月にトレーナーを含むヘルス・クラブの参加者のうちの80人を対象として、「既修者コース」の中で行なった養蜂トレーニングのフォローアップ・トレーニングを実施した。なお、ヘルス・クラブの参加者の終了式を2015年10月～11月にかけて行なった。</p> |
| <p>(3) 達成された成果</p> | <p>(ア) 安全な水へのアクセスの向上</p> <p>A. 学校における貯水タンク及び校舎の建設</p> <p>1) 貯水タンクの設置 <u>見込まれた裨益者数</u>：1) 計2基設置：約260人（計2中学校） <u>達成された裨益者数</u>：1) 計2基設置：379人（計2中学校） <u>内訳</u>：1) チオザ中学校：259人、ガンガンガ中学校：120人 (指標)：雨季にすべての生徒及び教員が安全な水を利用できる。 (成果)：雨季の期間、2つの中学校（チオザ中学校及びガンガンガ中学校）において、ほぼすべての生徒及び教員が飲料用及び手洗い用として安全な水を利用できた。なお、Ministry of Health and Child Care (MoHCC) とともに水質検査を行なった際に、2つの貯水タンクとも基準を超える量の細菌が検出されたため、MoHCC と連携して水の消毒を行なった。今後、貯水タンク内をきちんと清掃すれば、細菌の繁殖を防ぐことができる</p> |

ため、その方法については維持・管理研修を通して各校のSDCに伝えた。

B. コミュニティにおける浅井戸の設置及び修繕

見込まれた裨益者数： 1) 10基設置／修繕：約2,200人

達成された裨益者数： 1) 10基設置／修繕：約2,260人

内訳： 1) 約2,260人（8区：3基、9区：1基、33区：2基、34区：4基）

（指標）：水質検査が飲料に適していると判断され、浅井戸周辺に住む80%以上の住民が利用できる。

（成果）：全10基に対して、MoHCCとともに水質検査を実施した。その結果、3つの浅井戸で基準を超える量の細菌が検出されたため、MoHCCと連携して水の消毒を行なった。それによって、水質は改善され、飲料に適する状態となった。今後、MoHCCが3つの浅井戸を定期的にモニタリングしていく。再度消毒を行なう必要があると判断された場合には、MoHCCが責任をもって行なうこととなっている。なお、各浅井戸は周辺に住むほぼすべての住民が利用している。

（イ） 衛生環境の改善

A. 学校におけるトイレ建設

見込まれた裨益者数： 10棟（50個室）建設：約1,470人

達成された裨益者数： 10棟（50個室）建設：1,733人

内訳： 1) ネバナ小学校：460人、マブウェマテマ小学校：301人、ニューマイン小学校：361人、グラ小学校：352人、チオザ中学校：259人

（指標）：すべての教員・生徒がトイレを利用する。

（成果）：すべての教員・生徒がトイレを利用して、排泄している。

B. 学校における手洗い場の設置

見込まれた裨益者数：当初予定していなかった。

達成された裨益者数： 85基：約4,790人

内訳： グラ小学校：352人、ニューマイン小学校：361人、マブウェマテマ小学校：301人、ザンダ小学校：662人、ウンベ小学校：482人、ブングワ小学校：413人、マセモ小学校：825人、チオザ小学校：520人、ガンガンガ小学校：353人、マセモ中学校：260人、チオザ中学校：259人

（指標）：排泄後など教員・生徒の80%以上が手洗いを行なう。

（成果）：ほぼすべての生徒及び教員が手洗い場を使って、手洗いを行なっている。

C. 参加型保健及び衛生に関する教育の既修者コースの実施

第1期の事業で行なった「参加型保健及び衛生に関する教育」の中

| | |
|------------------|---|
| | <p>で理解度の高くなかった項目の定着化を図るために、第2期で「既修者コース」のトレーニングをヘルス・クラブのトレーナーに対して行ない、トレーナーらが2015年7月までヘルス・クラブでの活動を続け、多くのヘルス・クラブの参加者が水・衛生及び保健に関するより深い知識を身に付けることができた。加えて、水・衛生設備の維持管理費用の確保を目的として、養蜂のフォローアップ・トレーニングをヘルス・クラブのメンバー80人に対して行なった。第2期でも、「既修者コース」のトレーニングの中で、養蜂に関するトレーニングを行なっており、第3期では、知識、技術の定着化及び向上を図るために、フォローアップ・トレーニングを行なった。なお、指標に対する成果はミッドランド州ゴクウェ・ノース地区における水・衛生環境の改善事業（第2期）の完了報告書にて、報告済み。</p> |
| <p>(4) 持続発展性</p> | <p>(ア) 安全な水へのアクセスの向上</p> <p>A. 学校における貯水タンク及び校舎の建設</p> <p>1) 貯水タンクの設置</p> <p>貯水タンクを設置し終えた後、各学校のSDCに対して、貯水タンクの技術者を講師として、貯水タンクの維持・管理研修を行なった。研修の成果の一例として、研修後、貯水タンク内の水を衛生的に保つために、研修で学んだ通りにガンガンガ中学校及びチオザ中学校のSDCsのメンバーは雨水を利用して貯水タンクの掃除を行なった。また、研修を通して、必要な時にSDCsが技術者から技術的な助言や支援を得られるように、技術者と各SDCsとの関係構築を行なった。なお、ADRAとゴクウェ・ノース地区行政（Rural District Council of Gokwe North）の間で覚書を交わし、必要に応じて、ゴクウェ・ノース地区行政が貯水タンクの維持管理に必要な技術及び資機材をSDCsに提供し、SDCsとともに維持管理を行なうという点を確認した。</p> <p>B. コミュニティにおける浅井戸の設置及び修繕</p> <p>浅井戸の設置／修繕終了後、各浅井戸のWater Point Committees (WPCs：井戸管理委員会)のメンバー（浅井戸を利用している住民）に対して、維持・管理研修を行なった。研修成果の一例として、水を汲み上げるためのバケツを地面の上に置き、そのバケツを使って水をくみ上げるために、井戸内の水が汚染されてしまっていた井戸があったが、研修後、バケツを井戸の上に括り付けて管理するようになり、水を衛生的に保てるようになった。また、この研修を通して、ゴクウェ・ノース地区行政と各WPCsの間で関係構築を行なった。なお、浅井戸に関しても、ADRAとゴクウェ・ノース地区行政の間で覚書を取り交わし、浅井戸の維持管理に関して、WPCsだけでは対応できない場合に、ゴクウェ・ノース地区行政が技術や資機材を提供して、SDCsとともに維持管理にあたることとした。</p> <p>(イ) 衛生環境の改善</p> <p>A. 学校におけるトイレ建設</p> <p>トイレを建設し終えた後、各校のSDCに対して、MoHCCの職員を講師として、トイレの維持・管理研修を行なった。研修成果の一例として、</p> |

全 5 校すべてのトイレは、教員の指導のもと、子どもたちによって毎日掃除され、清潔に保たれている。加えて、この研修を通して、ゴクウェ・ノース地区行政と各 SDCs の間で関係構築がなされた。なお、トイレに関しても、ADRA とゴクウェ・ノース地区行政との間で覚書を取り交わし、ゴクウェ・ノース地区行政が維持管理に必要な技術や資機材を SDCs に提供し、維持管理に責任を負うことを明確にした。

B. 学校における手洗い場の設置

Tippy-Tap の構造について、各学校の SDCs に説明を行ない、それぞれの SDCs は維持管理の方法について理解を深めた。SDCs による維持管理の一例として、チオザ中学校では、Tippy-Tap に使われている紐が生徒によって切られ、取られてしまったが、SDCs が代用となる紐を購入し、修復した。なお、手洗い場についても、ADRA とゴクウェ・ノース地区行政との間で覚書を取り交わし、ゴクウェ・ノース地区行政が SDCs を支えるかたちで、維持管理に責任を持つこととした。

C. 参加型保健及び衛生に関する教育の既修者コースの実施

既修者コースの持続発展性については、ミッドランド州ゴクウェ・ノース地区における水・衛生環境の改善事業（第 2 期）の完了報告書にて、報告済み。